



「読書する人だけがたどり着ける場所」 斎藤孝

「ネットがあるから本はいらない」それは本当？読書だからこそ身につくことがある。「著者の思考力」「幅広い知識」「人生の機微を感じとる力」が身につく、「読書の効能」と「本の読み方」を具体的に紹介。最近本を読んでいないという人におすすめです。

読書の秋

「具体と抽象 世界が変わって見える知性のしゅみ」 細谷功

「わかりやすさ」の象徴が「具体性」だとするなら「抽象」は「わかりにくい」というのが一般的な概念。【「おにぎり」は具体か抽象か】【原作を読むか「映画」を見るか】など、様々な事例を「具体」と「抽象」それぞれの観点から解説する。具体と抽象を往復しながら見えてくる知性のありようとは。

哲学の秋

「日本の色のルーツを探して」 城一夫

神々の色、陰陽五行の色、平安の雅な色、江戸の粋な色、昭和の流行色まで。色の語源、日本の色のしゅみや色が意味を持つに至った各時代での風土的・歴史的背景を、美しい図版とともに探る。

芸術の秋



灯火親しむべし

図書館にはあなたの知的好奇心をくすぐる本がたくさんあります。秋にちなんで「知識の入り口」となりそうな本を読んでみませんか。

※「灯火親しむべし」は韓愈の漢詩のなかにある言葉。

「気候もよく夜の長い秋は、ともし火の下でじっくりと読書するのに適している」という意味。夏目漱石が小説『三四郎』の中で引用している。



「おいしい雑草」 平谷けいこ 他

ごちそうになる雑草を“菜”といい、それらを摘んで暮らしを潤す知恵が“摘み菜”の文化。道端に生えたあの野草も美しくおいしく個性的な料理に变身。巻末に掲載されている食べられない草の情報は忘れず確認したい。

食欲の秋

「見えないスポーツ図鑑」 伊藤亜沙 他

視覚障害者の方々にスポーツの臨場感をどう伝えるかという研究に挑む研究者たち。方法としてアスリートの身体感覚を翻訳するというのを思いつくが…。十種目の競技のエキスパートとタッグを組んで「人力VR」の開発に挑む、研究者たちの試行錯誤の記録。

スポーツの秋

ここで紹介している本はすべて図書館内で展示しています。手に取ってみてください。(貸出可です)

中秋の名月は9月29日

月の本

古来より日本人は月に魅せられてきました。H2A ロケットが飛び立ち、月の調査がかないような未来がみえてきました。月に思いをはせる本を紹介します。

「月の立つ林で」

青山美智子

ポッドキャスト『ツキない話』を聴いている人たち。月にまつわる語りを聴く彼らはそれぞれが少しずつ繋がっていて、知らぬ間に助けたり助けられたりしている。彼ら自身も彼らの想いも満ち欠けを繰り返し、新しくてかけがえない毎日を紡いでいく。連作短編小説。

「日食と月食データブック」 片山真人

2050年までの日食・月食についての詳細なデータブック。日食や月食がみられる日、場所、時刻の情報を細かく掲載。この本によると次の月食は2023年10月29日の部分月食。日本でも見られそうですよ。



「月光浴」 石川賢治

写真集。満月の光だけを光源にして撮影された美しい自然風景の数々。月が生み出すほのかな光と青い陰影に吸い込まれていく感覚。月夜の静謐さも味わえます。

「おつきさま こんばんは」 林明子

「よるになったよ
ほら おそらが くらい くらい」
「おや やねのうえが あかるくなった」
「おつきさまだ」
真黄色のおつきさまのイラストが懐かしい、おつきさま絵本の名作です。

図書委員作成 本の紹介大型POP



本への気持ちがこもった力作ばかりです。生徒玄関にて掲示中なので紙をめくって読んでみてください

図書委員のおすすめ本